

夜間保育

平成28年

9月16日 発行
2016-②

発行責任 全国夜間保育園連盟 会長 天久 薫
編集責任 大阪市東淀川区豊新3-25-5 豊新聖愛園
全国夜間保育園広報担当 草場加奈子
電話 06-6325-2405 Eメール info@zenyahoren.jp

平成27年4月にスタートした子ども・子育て支援新制度(以下「新制度」という。)は、2年目に入り、保育界もようやく一方で落ち着きを取り戻しつつ、他方、社会福祉法人制度改革で翻弄されつつあります。

さて、昭和56年に延長保育と共に創設された夜間保育は、当初からの課題であった、モデル事業からの脱却は平成7年度的一般化により、夜間保育独自の加算は平成10年度からの昼夜2食の予算措置により、児童の心身の発達に対する夜間保育の悪影響への危惧は平成12年の『夜間保育所の子どもの影響及び今後の課題に関する報告

書』による明確な否定により、24時間保育の完成は平成14年度の7時間の延長保育の創設により、それぞれ一定の解決をみました。更に、今回の新制度発足に伴い、夜間保育は延長保育と袂を分かち、施設型給付として位置付けられました。また、これまで保育所の入所基準であった保護者の「日間労働」は削除され、保護者の「月

第28回全国夜間保育園経験交流研修会のテーマは

「10年後の夜間保育を展望する」

「変貌する社会の保育需要に的確に対応するために」

全国夜間保育園連盟 会長 天久 薫

された『基本指針』の中には「市町村は、…夜間の保育が必要な子ども等特別な支援が必要な子どもが円滑に教育・保育等を利用できるようにするために必要な配慮を行うとともに、市町村、都道府県及び国は、必要な支援を行うことが求められる」ことが明記されています。加えて、認可夜間保育園は幼保連携型認定こども園に移行

不足、社会的には夜間労働や貧困に対する偏見、夜間保育は必要悪だとする偏見等により、制度創設時の厚生省母子福祉課長横尾和子氏(後に日本で歴代2人目の女性最高裁判事)が期待された当時の保育所数の1%(220か園)にも未だ到達せず、当初の目的であるベビーホテル対策としての機能は果たせずにいます。そこで今回、連盟顧問の先生方にお集まりいただき、1日目のシンポジウムで現在の夜間保育の課題を提示・整理していただき、翌日の分科会でこれらの課題を中心に論議を重ね、10年後の夜間保育を展望してみたいと考えます。

今回の全国夜間保育園経験交流研修会は、福岡で開催いたします。全国のお仲間とともに、夜間保育の未来について語り合おうではありませんか。



第28回 全国夜間保育園経験交流研修会のお知らせ

日程 平成29年2月11日(土)、12日(日)
会場 福岡市博多区住吉1-2-82
グランドハイアット福岡

テーマ

『10年後の夜間保育を展望する』
～変貌する社会の保育需要に的確に対応するために～

今回、連盟顧問の先生方にお集まりいただき、1日目のシンポジウムで現在の夜間保育の課題を提示・整理していただき、翌日の分科会でそれらの課題を中心に論議を重ね、10年後の夜間保育を展望してみたいと考えます。

【1日目】開会式・行政説明・シンポジウム

- コーディネーター 山縣 文治氏【関西大学人間健康学部教授】
- ① 櫻井 慶一氏【文教大学大学院教授】
 - ② 安梅 勅江氏【筑波大学大学院教授】
 - ③ 天久 薫氏【全国夜間保育園連盟会長】
- ★懇親交流セミナーで、交流を深めましょう。

【2日目】分科会

- 第1分科会・理事長・園長・運営担当者等
仮題「新制度と夜間保育園」
- 第2分科会・初任職員（～4年目位）
仮題「保育の原点を学ぶ」
- 第3分科会・経験職員・主任
仮題「科学的根拠に基づく保育」
- 第4分科会・調理師・栄養士・食育担当者
仮題「保育と食育」
- ★ 全体報告・閉会式

☆要項・申込書が出来次第、会員園様には、お送りいたします。



グランドハイアット福岡の夜



グランドハイアット福岡の外景

《子ども・子育て支援制度2年目：》

平成27年4月に施行された『子ども・子育て支援新制度』も2年目を迎え、幼保連携型認定こども園に移行した施設も随分多くなりました。

しかし、運営状況や保育の取り組みなど、何が変わったのかは、現場の保育者にはよく理解できないことも多くありました。

当連盟の中でも、これまでに「認定こども園」に移行した施設は、10か所足らずで、決して多いとは言えません。これまでも「夜間保育」に取り組んでいる保育施設は多くはなかったのですが、新制度に移行して「認定こども園」に移行することで、自分の法人、自分の保育所、自分の保育がどう変わるか、よくわからないまま、制度改革の渦に飲み込まれた感がぬぐえません。

そこで、広報部として、当連盟の2カ所の夜間保育園を訪問させていただきました。一カ所は、いち早く新制度に対応し、「認定こども園」として保育を開始された「幼保連携型認定こども園・よいこのもり第2」もう一カ所は、従来そのまま「夜間保育所」として運営されている「野町夜間保育園」。

どちらも、理事長が対応して下さり、「新制度」への思いを語っていただきました。

突然の訪問にも関わらず、丁寧な対応をしていただき、ありがとうございました。

保育所訪問第一弾！

《よいこのもり第2幼保連携型認定こども園訪問》

6月13日・月曜日、風光明媚な街、宮崎の抜けるような青空と南国特有のワシントンパームの並木道がお出迎えのはずでしたが、梅雨まつただ中の宮崎は、飛行機が無事着陸できるかもわからないという悪天候！青い空も青い海も真っ白な霧の中。空港からタクシーで30分（天気さえよかったら…）宮崎市の繁華街を突き抜ける、市の中央部を貫く大淀川に沿って落ち着いた住宅街が広がり、宮崎大学の付属小・中学校、美術館などがある文教地域にいいこのもり幼保連携型認定こども園・よいこのもり第2幼保連携型認定こども園があります。



もともと、公立保育園だったので、子供9名、職員が7名という悲惨な状況が続き、財政負担の観点から、当時の市長が全国でも公設民営の第1号として移管されたとのことです。再建として、昼間の保育園として出発させた

移管されて間もなく、既存施設の建て増しをして、また、5年前には60名分の増築をして、平成27年4月の制度改正と同時に「幼保連携型認定こども園」に移行されました。

昼間型の125名定員の認定こども園と24時間型の55名定員の認定こども園として認可を受けました。

かっただけですが、その当時、この公立保育園の存在は今まで子供が少ないために、近隣の保育園を脅かす存在ではなかったのです。しかし、完全に再建されると、近隣の保育園運営には大きな影響を与えるという危惧が生じることで、民間移管には反対運動があったようです。

ところが、「夜間保育園であるならば反対はない」という言質を

宮崎市が取り、夜間保育園として開設したという経緯があります。当時、僅かな子供たちしか利用の

なかった施設は、1年後に息を吹き返して、昼間保育園も併設するという繁栄ぶりでした。

宮崎市は、夜間保育に対する独自の経済的支援はなく、国基準の単価だけで未明の3時まで毎日開園しています。働く職員は保育経験の豊富なベテランを配置していますが、とにかく人材不足は深刻であり、夜間保育園の看板を降ろ

そうと思ったことは何度もありました。

今回の訪問の目的の第1は、24時間型夜間保育所でありながら、「幼保連携型認定こども園」に移行されたので、移行時の課題や問題点、保護者対応、保育内容の見直しなどの考え方を知ることでした。それとともに、数年前、前事務局長が広報を模索する際にHPの立ち上げやPRのノウハウなど小笠原理事長にご指導いただいたことへ謝意も含めての意味もありました。



洗濯バサミを使っの指先遊び

加えて、今年度の夜間保育園連盟の組織改編にあたり、夜保連広報部としてHP管理とその運営を担当することになった報告でもありました。

小笠原理事長には、夜間保育園として、さらに夜間保育園連盟の課題や問題点をどう感じておられるのかを、質問することが大前提でしたが、この件に関しては『夜間保育』の『提言』として執筆していただくお約束をしていたことができました。

《よいこのもり第2》の日高智樹園長に「新制度への移行の中で、認定こども園については、どのように考えて対応されたのですか」とお尋ねしました。

日高園長は『悩むことではないと思いますよ。夜間保育といえども、夜間の子供たちは、昼間の子供たちのように規則正しい生活リズムを整えてあげることが重要であって、ただ夜を家庭で過ごすか、施設で過ごすかの違いであって、夜間を利用している子供たちの多くは、昼間の子供たち同様に朝か



文字遊び

ら登園してくるわけです。当然、1号認定の教育時間の確保は、午前中に確保できるわけです。夜間保育園だから認定こども園に移行できない、という考えは、私たちが「施設の運営形態が異なるから無理」という先入観があって、それが邪魔しているのではないのでしょうか。地方自治体の多くも、夜間保育園が、認定こども園に移行することは認められない、というのを平気で言うわけです。

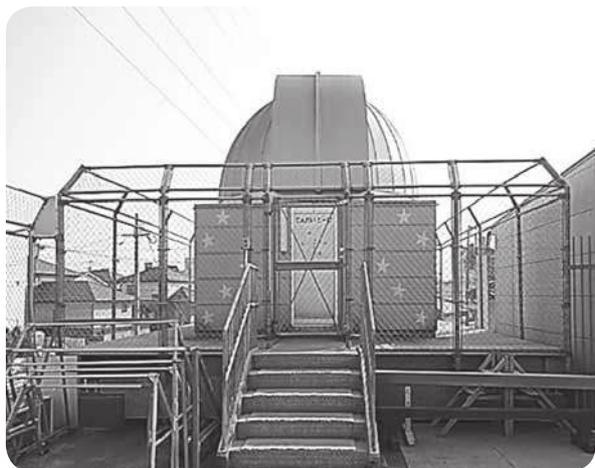
内閣府の通知文書を読んでもそのような内容はなく、「夜間保育

には教育時間の保障なんてできる訳がない」という始末です。それは行政職員の殆どが夜間保育を利用している子供の実態を知らず、また実際に現場を観ていないからでしょう。

夜間保育の2号の子供達も朝から現に多く登園しているわけです。自治体の職員が夜間保育の子供たちと、高等学校の二部、つまり日中に働きながら学校へ通うシステムと同義語として捉えているところがあるのではないのでしょうか。私たちは昼間利用の子供が家庭に帰り、夕食を済ませ、入浴を済ませ、就寝する、という規則正しい過程をそれ以上の節度をもって夜間保育の中で保障しているわけですから、保護者は、延長保育の午前の時間帯を利用して登園させることができるのです。細かいところでは、教育を開始する時刻の設定が昼間と比べると、多少、開始時刻設定が遅くなっても、構わないわけで、何ら子供にとって問題はないと思います。くだいようですが、夜間利用の子供たち

の多くは、昼間利用する子供たちの時間帯と重なって教育・保育を自然な形で受けているわけです。夜間の子供と昼間の子供が一緒になって、区別も分別もなく混在した中で教育を受けている姿こそがすばらしいと感じています。』

その後、園舎と保育を見学：ちようど午睡から目をさました子どもたちが笑顔で挨拶してくれました。子どもにとって、制度の改革に関係なく、自分の安心できる場所・人を肌で感じ取っていると感じました。



「よいこのもり」の屋上には、天体ドームがあります。九州では天文学で有名な都城市の天文台の蓑部樹生先生によるご指導を受けているそうです。しかもボランティア精神で地域住民に貢献されているようです。子供にも保護者にも、毎回宇宙の夢を語ってくださいます。

子供たちは星座版を使って学習を積み重ねており、年長にもなると、四季の天体を完全に覚える子供が多いとのこと。高校生でも大学生でも知らない天文を自然に体得するといえますから驚きです。この天体ドームによって宇宙のさまざまな情報がメディアによって紹介されると、地域の方々や天体に興味のある方が来訪されると思います。

宮崎の中心部に位置しながらも、季節ごとに変わる美しい星空、天空に煌めく星々を眺めて子どもたちはどんな夢を育むのでしょうか。夜間保育所ならではのロマンあふれる取り組みです。だから、クラスネームは、星座の名前です。



蓑部先生と興味津々に天体望遠鏡をのぞく子ども

オリオンやペルセウス：「教育」が特別な取り組みではなく、日常の保育の流れの中に位置付けているのを感じました。

「よいこのもり」・「よいこのもり第2」の教育・保育目標は、「生き抜く力の基礎を培う」です。それを具体的に表す子供たちの像として、「人間としての型を身に着ける」・「元気な子ども」・「考える子ども」・「仲の良い子ども」で保育内容を組まれており、行事もその展開でなされているとのこと：理事長や園長の熱い思いがひしひ

しと伝わる訪問でした。お忙しい中、対応していただきありがとうございます。ございました。

記録・岡戸淳子



《保育所訪問》第二段

野町夜間保育園(金沢市) 訪問

8月28日(木)大阪から草場・岡戸(豊新)が広報部会議・機関紙「夜間保育」編集会議と保育所訪問の取材と盛りだくさんのスケジュールを詰め込んで、金沢到着。

和服の金沢美人も着物を脱ぎ棄



てるほどの酷暑！日差しが熱い！金沢の伝統芸能である加賀宝生の鼓をイメージしたという《鼓門》がお出迎え。鼓門の手前には総ガラス張りの《もてなしドーム》

伝統と革新が共存している街です：と言いつつ、暑さを避けて早々にタクシーに乗り、本日の会議の場を提供していただいた、野町夜間保育園にむかいました。

野町保育園は、金沢城近く犀川沿いの野町・寺町地区にあり、名の通りあっちもこっちもお寺ばかり、タクシーが降ろしたところ



昔のヒーローたちも広報部会議に参加

は…なんと隣のお寺!! 理事長先生に携帯で誘導していただき、やっと到着。
 玉龍寺の山門をくぐると野町保育園・野町夜間保育園があります。山門では仁王ならぬガンダムがお出迎え、酷暑の日差しを遮る桜の巨木の木陰でホーッと一息。理事長の道林信郎先生と先着の広報担当役員の橋本先生(京都・こぼと)次田先生(岡山・めぐみ第二)がお出迎え。奥様が出て下さった冷たい緑茶の美味しかったこと!

広報会議に先立ち、園内を見学、子どもたちからご挨拶をいただきました。保育室の前や廊下には、絵本から飛び出して来たような可愛いお人形が置かれていて、まるでメルヘンの世界に来たようでした。

その後、道林先生から夜間保育所開設の経過や近隣保育園との競合・調整など、率直にお話ししていただきました。

『当初、社会福祉協議会から夜間保育園の打診があった時、金沢市内の保育園はどこも断った。野町は先代理事長が「男気」で引き受けた。しかし、定員割れや職員確保など、問題が常にあった。その後「24時間開所」の打診も受けたが、現状無理と断った。その時々判断と状況で決断するしかない。これが運営者・理事長の仕事と考えている。

認定こども園への移行については、当面考えていない。その理由として、金沢市全体が消極的であり、今、手をあげたら、昼夜を一緒にするよう指導されるだろう。

夜間を必要としている子どもたちのことを考えたなら、当面現状のままでいこうと決断した。

自園では、現在定員が充足しているが、以前定員割れしたとき、大幅な減収となった。事業単位で補助金が出るようにならないと、運営が安定しない。職員の雇用の安定もはかれない。どんな社会情勢の中でも、まず、法人としての生き残りを図らねばならない。夜間保育所は、社会状況に変化で定員割れを起こし易い。希望者がいても、その年齢枠が空いてなければ



園庭と境内が…メルヘンの世界

ば受け入れられない。行事とか研修とかも、昼間保育所のバックアップがあるからかろうじてできる。単立では難しいだろう。利用者も、現状維持を希望されている。認定こども園になっても変わらないう保証がないから等、さまざまな検討の結果、移行を保留して…とのこと。

広報会議の中では、多様な運営母体の夜間保育園連盟の中で、自園の運営方針を、説明したり検討できる研修が必要という意見が出ました。

会議が終わるころには、日中の刺すような日差しも和らぎ、残り時間、金沢散歩を楽しみました。途中、夕立に振られ、あわてて飛び込んだ居酒屋の「のどぐろ」の一夜干し、めっちゃ美味しかったです。お世話になりました。

文責・岡戸淳子



《事務局活動報告&雑感》

春の総会には多くの先生方にご参加いただき、ありがとうございます。総会後は決議に従い、新年度の名簿確認、ホームページに関するアンケート、会費納入と、皆様方にはお手数をおかけ致しました。新会員様を迎え、今年度も皆様のご支援を頂きながら頑張つて参ります。

と言いつつ、既に今年度も半ば。振り返ると今年度は、4月の熊本地震だけでなく、西日本での6月の大雨被害、東北北海道で猛威を振るった台風10号など、今までにない災害が起きました。

また、相模原の障害者施設では大きな事件があり、かつ全国的に爆破予告が自治体に届くなど、不審者対応の見直しを迫られました。

オバマ大統領の広島訪問やオリピックでの日本人選手の大活躍は、日本人としてのアイデンティティーを取り戻す出来事でもあったのではないのでしょうか。

保育・幼児教育の分野では、当連盟の加盟園が全国のメディアに取り上げられ、夜間保育というものの大切さを一般の方々にも触れて頂ける機会となりました。他に

は待機児童や潜在保育士の問題から法人制度改革など引き続き問題は山積しており、更には『企業内保育所』の設置推進や『入園予約制』・『防犯設備導入補助』など新しい取り組みについてなど様々なニュースがあり、今後も注視していきたいと思えます。

いよいよ年度後半。子ども達の活動も充実してきて、運動会や発表会など日頃の活動を披露したり、就学に向けて保育所、幼稚園、認定こども園、小学校と連携したりする機会も増えてくる時期です。子ども達の笑顔と元気を力に変えて、更なる保育の充実に邁進していきたいと思えます。

そして2月には経験交流研修会が行われます。北海道から沖縄まで、まさに全国の夜間保育を志す仲間が集う年に一度のこの大会を、今年度は九州・福岡にて開催します。今回も参加者がワクワクできて、やる気を持ち帰ることが出来るような研修会となっておりますので、たくさんのご参加をお待ち申し上げます。

全国夜間保育園連盟事務局
鳥地シティ夜間保育園

桑原 静香



歓楽街・中州に寄り添う「真夜中の日だまり」 親を支える夜間保育園 どろんこ保育園(Yahoo! ニュースより)



★編集後記

新年度がスタートして束の間、4月16日、日本各地が『熊本地震』の速報に不安のどん底。

正直、5年前の2011年3月11日の東日本大震災が、まだまだ目にくっきりと焼き付いている。

車・家・町が地震の余波で津波に飲み込まれていく未曾有の光景が頭を過った。熊本県周辺では、倒壊した家・寸断された生活道路等、やはり事態は予断を許しません。その後のニュースでは、熊本地震のみならず各地での地震速報が今も後が絶えません。

各地で被害に遭われ、今なお日常生活に戻れていない方々もたくさんいるとの事です。心からお見舞い申し上げます。

また、8月後半に入ってから、台風が一度に2つも3つも連なってきた。特に東北・北海道地域に大きな被害をもたらしました。全国夜間保育園連盟のお仲間の園はどのように過ごされたのでしょうか？

そんな暗いニュースの中で、日本の裏側では、リオオリンピック

で活躍する日本選手の若者たちが、私たちに少しの間でも元氣と勇気を与えてくれました。治安状態が心配だっただけにみんな無事に帰国されたのは、何よりでした。

広報部では、去る7月28日(木)に石川県金沢市の野町夜間保育園にて、広報部会議と今号の編集会議を兼ねての集まりを持ちました。

金沢と聞けば、北陸新幹線開通から1年。いざ野町夜間保育園のある金沢市まで。気が付けば広報担当者は、岡山・京都・大阪と西日本からの金沢入り。結局は、北陸新幹線とは逆方向で、乗る機会を逸し残念でなりません。

広報部会議は、園訪問も兼ねて会員の皆さんに各園を紹介していきたいという思いで、担当者の園で開催していくことを初回の会議で確認を取り、それぞれの園の工夫やその市町村での夜間保育のニーズなどをお聞きしながら、各地での現状をお知らせしている次第です。

広報部が出来て、2年目になります。連盟のホームページ(以下、HP)の整理や活用方法等、また、それぞれの園が管理する園

のHPとうまくリンクしていけるようにと動いておりますが、60数カ所の加盟園の情報が揃うまでが、なかなかの時間を要します。

「HPに新着情報が載らない限り、利用者には情報提供できないのと同じです。」とばかりに広報を担当してから毎日、HPを開いては、どれくらいの方が夜保連のHPを見て下さっているのだろうかとチェックしています。

多い日で、3〜40件検索がありますが、平均20件位は、検索されています。

今回は、7月にヤフーニュースで、福岡市博多の『どろんこ保育園』が紹介され、夜保連のHPでも紹介したところ、一時期に比べて検索数が増えました。

この先は、夜保連HPから各加入園のHPへのリンク準備を行っていきますので、今しばらくお待ち下さい。

全国夜間保育園連盟広報担当

豊新聖愛園 草場加奈子



博多は、よかよー。
ちいと来んしゃい。
まっどーと！！